

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美1】

【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術）

【実施日】令和8年9月28日（月）

担当大学名	秋田公立美術大学			
会 場	(会場名) 秋田公立美術大学			
	(所在地) 秋田県秋田市新屋大川町 1 2 - 3			
講 師 (肩書・氏名)	大関智子 (秋田公立美術大学 美術教育センター 准教授)			
対 象	中学校美術科, 高等学校芸術科 (美術) 担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	「画材解剖学 ～描画材料の組成と定着の仕組みを紐解く～」			
研修内容の概要	私たちが普段使用する描画材料とはどのようなものなのか、主に学校現場で使用される描画材料に焦点をあて、それらを構成する成分と定着する仕組みについて理解する。また、実際に各描画材料を制作する活動を通して、関連する古典技法や材料、用具に触れながらそれぞれの特性について理解を深める。			
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：「A表現」(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術Ⅰ）：「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)アイ			
内容と方法	導入として、描画材料と絵画表現の変遷、および各描画材料（水彩絵の具、アクリル絵具、クレヨンなど）の組成と定着の仕組みに焦点を当てた講義を行う。その後、材料や用具を実際に扱いながら用法と特性について理解し、基本的な制作工程に従って各自のテーマ設定のもと描画材料を制作する。また、学校現場における教材としての展開も視野に入れ、教材化の事例についても講義の中で触れる。			
到達目標	各描画材料の組成や定着の仕組みについて知り、その特性を理解するとともに、授業内での活用および教材化へ向けて視点を深めることができる。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）		参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）／オリエンテーション（趣旨説明、日程の確認など）		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:20	テーマ別実践研修（午後の部）／ミニ講義		参集
	13:20～15:00	実験制作（水彩絵の具、アクリル絵具、クレヨンなど）		各自作業
	15:00～16:20	本制作（各自設定テーマに基づく描画材料制作）		各自作業
	16:20～17:00	制作作品鑑賞、まとめ		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	エプロンなど汚れても良い服装			
特記事項	○資料の配布方法：無 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：無			

令和 8 年度 芸術系教科担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美 2】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 【実施日】 令和 8 年10月 2 日（金）

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	教授 鈴木マサル（テキスタイルデザイン専攻領域） 教授 山田 猛 （教職課程）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	地域の魅力を引き出すテキスタイルデザイン		
研修内容の概要	・地域の魅力を引き出すために、多様な視点で再考することで新たな価値観の創造を目指したコンセプトを生み出し、より効果的な配色と形によるテキスタイルデザインを、その活用方法も想定して制作することで、現場に戻ってからの実践や地域における社会実装を意識した授業づくりに繋げる。 ・マリメッコ等のデザイナーとしても著名な鈴木マサルが、地域の魅力を引き出すための様々な仕事におけるプロとしてのアプローチや、そのプロセスについての解説を交えながら実践指導にあたる。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現(1)イ(ア)(イ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、イ(ア)、〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術Ⅰ）：A表現(2)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)イ(ア)、〔共通事項〕(1)アイ		
内容と方法	・様々な地域からの参加者とグループ討議をし、多様な視点で地域の魅力について再考することから主題を生み出し、コンセプトなどを考えながら、文様としての表現の構想を練る。 ・地域の魅力を引き出すことをコンセプトにし、空間の印象を変え得るテキスタイルデザインにおいて、布の質感や特質を活かし、形や色彩などの性質や、感情にもたらす効果などを大切にしながら構想し、型染めとして制作する。次に、活用方法と共にプレゼンテーションや参加者同士での鑑賞を行う活動を通して、デザインの動きや魅力についての学びを深める。		
到達目標	地域の魅力を引き出すために、多様な視点で新たな価値観の創造を目指したコンセプトを生み出し、配色と形を練り上げ、布の質感や特質を活かしたテキスタイルデザインとして、その活用方法も想定した表現と鑑賞についての授業づくりを構想する。		
		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	参集/登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:20	オリエンテーション、レクチャー①、演習①導入・コンセプト	参集 /グループワーク等
	12:20～13:20	昼食	
	13:20～16:30	レクチャー②演習②アイデアスケッチ、デザイン、型作成 演習③染め 相互鑑賞 (制作の合間に随時休憩)	参集 /制作 制作グループワーク
	16:40～17:00	全体講評・其々の研修内容の共有	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	筆記用具、エプロンや汚れてもよい服装		
特記事項	○事前・事後課題の有無： 無 ○資料の配布方法： 研修会当日配布 ○受講する上での環境条件等：学食、学内コンビニエンスストア、学食スペース及び学内カフェテリア飲食スペース利用可。学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください。		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美3】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和8年10月2日（金）**

担当大学名	常葉大学			
会 場	(会場名) 常葉大学静岡瀬名キャンパス			
	(所在地) 〒420-0911 静岡県静岡市葵区瀬名一丁目 2 2 番 1 号			
講 師 (肩書・氏名)	造形学部准教授・磯崎えり奈			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	空間表現－光と影の世界－			
研修内容の概要	光と影を用いて空間表現を行う。照明やプロジェクターなどの映写機器、布や紙、木材、日用品や道具などの材料と、身体表現などを組み合わせて光と影を活かした空間表現を行う。グループまたは個人でテーマやストーリーを考え、空間に物を配置したり、人の動きなどを使ったりして光と影で表現する。			
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術）：A表現(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)アイ			
内容と方法	私たちの生きる世界を見つめ、思い浮かべた像や情景のイメージを、物体だけではなく影という形のないものに注目し作品を制作する。照明やプロジェクターなどの映写機器と、布や紙、木材などの自然素材、日用品や道具など様々な材料と、自身の体を使った身体表現を組み合わせて光と影を活かした空間表現を行う。グループまたは個人でテーマやストーリーを設定し、それに合わせた表現を行う。大学内にあるギャラリー使用し、広い空間の中で、光と影を用いてどのように表現するのか、どのような可能性があるのか試行錯誤しながら制作する。授業の最後にはグループごとに発表し鑑賞する。			
到達目標	光と影の現象と効果を理解し、表現に繋げることができる。 様々な材料、または身体を使い工夫しながら制作し表現の幅を広げる。 思い浮かべた像や情景のイメージを、光と影を用いて工夫し制作することで創造力を養う。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		3号館1階3104教室
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別）		参集／動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動		2号館2階常葉ギャラリーA
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）光と影の特徴を捉えるための実践		内容説明
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～14:00	テーマ別実践研修（午後の部）テーマやストーリーを決定		実験と工夫
	14:00～15:50	制作		グループワーク
	15:50～16:40	グループごとに発表を行う		発表
	16:40～17:00	振り返り		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	身体表現を行うので、動きやすい服装が望ましい。			
特記事項	○資料の配布方法：無し ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：薄暗いギャラリースペースでの活動となる			

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高工1】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】令和8年9月28日（月）**

担当大学名	秋田公立美術大学			
会 場	(会場名) 秋田公立美術大学			
	(所在地) 秋田県秋田市新屋大川町12-3			
講 師 (肩書・氏名)	秋田公立美術大学 美術教育センター教授・尾澤 勇			
対 象	中学校美術科, 高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	銅・真鍮による、技法・表現の可能性ー鍛金の皿制作を通してー
研修内容の概要	銅板と真鍮板（七三黄銅）を用いて、鍛金技法により皿等の制作を行う。銅は古くから「あかがね」と言われ熱や電気の伝導率が高く、食器や厨房用品などに使われてきた。真鍮（黄銅）は銅と亜鉛の合金で、「プラス」とも言われ黄金色が美しく金管楽器や器物に用いられている。銅板や真鍮板は、金鋸などで加工変形すると加工硬化し、加熱し焼き鈍し工程を経ることにより軟化し、引き続き加工を続けることができる。この研修では、金属の熱処理やその後の酸化皮膜除去、表面の化学変化による着色など、金属工芸ならではの特性を体感する。板金は、木臼や砂袋に対して木槌などで膨らませ、当金や金床などを敷きながら各種の金鋸でハンマリングすることで器状にすることができる。絞り技法を繰り返せば、深い容器状も可能であるが、今回は、比較的簡便な基本的な当て金や金床などを用いることで、学校での授業に応用できるように、深い形状を避け皿状の器とする。そのかわり、鋸目や鑿などでの加飾や錫引きなどの表面のテクスチャーなどを試しながら様々な魅力的な表現を体験する。また制作の工程で道具や薬品などの安全な使用方法などにも触れる。 中学校や高等学校の生徒に使う目的や条件などを基に、使用する者の立場や生活や社会の中での使用も考えながら、自己への思いや他者への願いを実現することのできる題材に発展させることができる。
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科： A表現（１）イ(ウ)、（２）ア(ア)(イ)、 B鑑賞（１）ア(イ)、イ(ア)(イ)、〔共通事項〕（１）ア イ 高等学校芸術科（工芸）： A表現（１）ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、（２）ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ) B鑑賞（１）ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、〔共通事項〕（１）ア イ
内容と方法	オリエンテーション：鍛金と金工の教材化について（加工硬化と焼き鈍し等の実演を含む） ①使用用途を考え発想や構想をし、材料（板金）を無駄なく使用し、皿などの形状を考え材料取り（外形を野書く）を行う。（皿などの外形はあまり鋭角状な図案は避ける。） ②板金に外形図案を写す。 ③金切鋸や糸鋸で切り抜き、外形の端面を鑢でバリを取り滑らかにする。 ④焼き鈍し（材料の軟化）と酸洗い ⑤砂袋や木臼などを敷き、その上から木槌などで膨らみをつける。 ⑥金床や様々な形状の当金などを敷き金鋸でならしたり、鋸目や鑿などで装飾模様をつけたり錫引きなどを行ったりして表面テクスチャーを工夫して完成に近づける。 ⑦端打ち等を施したりし、硫化着色などを行い完成する。 ⑧受講者同士の作品を相互に鑑賞することで、この課題に対しての各校種の授業への応用について、ディスカッションする。

到達目標	銅や真鍮板を用いた鍛金の皿等を完成し、実際に授業に展開するための指導上の注意点等を確認し、授業化の視点を深めることができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部） オリエンテーション及び板金の焼き鈍し作業（実演）	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:30	テーマ別実践研修（午前の部） オリエンテーション及び板金の焼き鈍し作業（実演）	参集
	13:30～14:30	外形図案を基に切り抜き、焼き鈍し・酸洗い作業、膨らまし作業を行う。	各自作業
	14:30～14:40	休憩	
	15:15～15:50	仕上げ・硫化着色等。感想用紙を記入する。	各自作業
	15:50～16:40	作品講評（受講者同士のディスカッション）	グループワーク
	16:40～17:00	振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	教材：銅板1枚・真鍮（七三黄銅）1枚、錫引き作業用具等 各種鍛金に用いる工具・薬品等、感想用紙 各自の持ち物：軍手、筆記用具、作業しやすい服装、お持ちであれば高等学校工芸Ⅰ・Ⅱの教科書		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：作業着、軍手などを着用し安全に作業できる準備		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高二】
【分科会】 中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】 令和8年9月28日（月）**

担当大学名	金沢美術工芸大学			
会 場	（会場名） 金沢美術工芸大学			
	（所在地） 石川県金沢市小立野2丁目40番1号			
講 師 （肩書・氏名）	足立 真実（金沢美術工芸大学・教授）（進行：桑村 佐和子（金沢美術工芸大学・教授））			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	天然染料による染色　一先人の知恵と自然から学ぶ授業の展開― ☑		
研修内容の概要	本研修では中学校における「美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」また、高等学校芸術科工芸の「主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う」ことに重点を置いた授業展開について考える。天然染料に触れ、先人たちが培った知恵を学ぶことにより、現代のサステナブルな様式への展開を考えると共に、伝統的な美の感覚を養う授業を検討する。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現(1)イ(ウ)(2)ア(ア)(イ)　B鑑賞（1）ア(イ)イ(ア)(イ)　〔共通事項〕（1）アイ 高等学校芸術科（工芸）：A表現(1)ア(ア)(イ)イ(ア)(イ)(2)ア(ア)(イ)イ(ア)(イ)B鑑賞（1)ア(ア)(イ)イ(ア)(イ)〔共通事項〕(1)アイ		
内容と方法	天然染料による染色について大学資料等を用いつつ様々な植物の色の違いや素材の特徴を学び、さらに実際に染める体験をすることで自然との関わりに意識をもち、中学校美術・高等学校芸術（工芸）の授業にどのように活かすかを考える。 ①レクチャーと実際に染められた色のサンプルを見ることにより、天然染料の歴史的背景、技法的特徴を学ぶ。 ②天然染料による染色法を体験する。 ③中学校美術、高等学校芸術（工芸）での授業展開についてアイディアを出し合い、今回の体験の振り返りを行う。		
到達目標	天然染料による染色について参加者（教員）自身が基本的技法を体験し、古代からの知恵を学ぶことにより、自然の色の美しさ・畏敬の意識を深めると共に、先人の教えを取り入れた現代においての活用を考える。 具体的な生徒像を想定して、それぞれの学校の実態に合わせた題材設定を考える。 伝統工芸に対して生徒に造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ねさせることにより、生徒が伝統文化に幅広く関わることに資することを再認識する。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	演習：天然染料による染色の体験①	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	講義：天然染料についての講義	参集
	14:00～16:00	演習：天然染料による染色の体験②	各自作業
	16:00～16:40	演習：授業への応用の可能性	グループワーク
	16:40～17:00	全体講評・振り返り	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	当日の服装は袖に引っかかりが無いもの、履物はすべらないもの（ハイヒールや厚底はNG）をご用意ください。 その他、服装・持ち物等について、必要に応じて参加者に追加連絡をいたします。		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：無		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高工3】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】令和8年9月29日（火）**

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学美術学部 中央棟第1講義室及び総合工房棟4階			
	(所在地) 東京都台東区上野公園12-8			
講 師 (肩書・氏名)	山田菜々子（美術学部工芸科染織准教授） 渡邊五大（東京藝術大学美術研究科美術教育研究室 教授） 金田真咲（美術学部工芸科染織テクニカルインストラクター） 河邊実央（美術学部工芸科染織教育研究助手） 藤江いづみ（美術学部工芸科染織教育研究助手） 出口莉奈（美術学部工芸科染織ティーチングアシスタント）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	草木から色をつくる ～原始的な染色技法を通して～		
研修内容の概要	本研修では、身近な草木から色を抽出して布を染めるための基礎を学びます。「縫い絞り」という原始的な染色技法に着目し、植物がもつ色素の特性や、自然素材を用いた染色のプロセスを実践的に体験します。草木の種類や処理方法によって生じる色彩の違いや、「縫い絞り」ならではの偶然性や豊かな表現について考察します。素材と向き合う手仕事の価値についても理解を深め、ものづくりの原点に触れ、新たな創作の視点を獲得することを目指します。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術：A表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、イ(ア)(イ)、〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（工芸Ⅰ）：A表現 (1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)、B鑑賞 (1)ア(ア)、イ(ア)(イ) 〔共通事項〕(1)アイ		
内容と方法	木綿生地のエコバッグ（予定）に印付けを行い、その印に沿って一定間隔で縫い絞ることで、美しいプリーツ状を形成します。絞りを施した生地は媒染を行った後、草木から抽出した染料液を用いて刷毛染めを行います。蒸熱処理を施した後に糸を解いて完成です。同じ技法を用いても、媒染の方法や使用する染料の種類によって色味や表情は大きく異なり、一人ひとり異なる個性溢れる表情が生まれます。		
到達目標	原始的な絞り染めによる立体的な模様と、自然由来の色彩が織りなす豊かな表現を体験しながら、草木染めの基礎を理解し、その魅力について考えることができる。実際の授業にどのように応用できるかを探りながら、現在の工芸の姿を考察し、将来への美術(工芸)教育を考える。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	講師紹介、染色研修実施についての説明、染料抽出、印付け	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	縫い絞り	参集
	14:00～16:15	媒染→染色→媒染→（蒸し固着）	参集(各自作業)
	16:15～16:40	片付け	参集(グループワーク)
	16:40～17:00	全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	汚れても良い服装（エプロンなど）、タオル、お弁当持参可（会場内で昼食を取ることも可能。）		
特記事項	○資料の配布方法： 当日配布 ○事前・事後課題の有無： なし ○受講する上での環境条件等：学内に学食はございますが、昼食時には混雑が予想されます。		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高工4】

【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（工芸）

【実施日】令和8年10月2日（金）

担当大学名	常葉大学			
会 場	（会場名） 常葉大学静岡瀬名キャンパス			
	（所在地） 〒420-0911 静岡県静岡市葵区瀬名1-22-1			
講 師 （肩書・氏名）	造形学部教授・山本浩二			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	アルミニウム鋳造生型法（焼失原型）
研修内容の概要	一般的な鋳造は溶解炉と土間が必要であり、型を焼成するには窯も準備しなければならない。発泡スチロールを用いたアルミニウム鋳造生型法は鋳造のプロセスの中で原型を取り出すことを必要としない手法であり、簡易的で精度に欠けるが理に適った技術といえる。本研修では原型制作から鋳込みまでの工程を体験し、美術や工芸作品など、プロダクト製造以外にも用いられる鋳造についての理解を深める。
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)イ(ア)、〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（工芸Ⅰ）：A表現(1)ア(ア)(イ)イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア)イ(ア)、〔共通事項〕(1)アイ
内容と方法	内容： 純度の高いアルミニウムは融点が660℃であり、合金である鋳造用アルミニウムはさらに低い温度で溶けるため、家庭用の七輪と木炭の火力で溶かすことができる。発泡スチロールを電熱線などで加工して原型をつくり、湿った鋳物砂の中に埋没して上から直接流し込むことで瞬時に焼失し、できた空洞に溶けたアルミニウムを流し込むという技術である。圧縮を加えることで良く締まる鋳物砂を使用し、一斗缶などを使うことでコンパクトに鋳造を行う。冷めて固まった後に掘り出して湯口・湯道を切断し、研磨して完成となる。 方法： ①説明。発泡スチロールの塊から電熱線などを使って形を探る。（30分） ②原型制作。（100分） ③湯口・湯道を接着する。（30分） ④一斗缶を使い原型から湯口までを埋没させる。（40分） ⑤鋳造。（30分） ⑥冷却して湯口・湯道を切りおとし、グラインダー等で研磨する。（30分） ⑦作品を鑑賞する。（20分） ⑧全体振り返り。（20分）
到達目標	発泡スチロールによるカービングと鋳造に必要な湯口・湯道の制作について理解するとともに、これらの体験を通してアルミニウムという素材に対する理解と鋳造技術についての考察ができるようになる。

スケジュール	実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付	3号館 1階3104教室
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別）	参集／動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集 3110教室
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～17:00	テーマ別実践研修（午後の部）	参集 3110教室
	13:00～16:30	各自作業	
	16:30～17:00	作品鑑賞	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・ 持ち物等	作業着（長袖、長ズボン、くるぶしが隠れる靴下、綿素材が望ましい）、スニーカーなどの作業靴、帽子・タオル・手拭い等頭に被るもの 革手袋、ゴーグルは大学にあります。		
特記事項	○資料の配布方法：無し ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：高温となる作業なので、残暑が厳しい場合は水分補給が必要となる。		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【高書1】
【分科会】高等学校芸術科（書道） **【実施日】令和8年10月2日（金）**

担当大学名	東京学芸大学			
会 場	（会場名） 東京学芸大学			
	（所在地） 東京都小金井市貫井北町4-1-1			
講 師 （肩書・氏名）	東京学芸大学教授 加藤泰弘 日本芸術院会員 高木聖雨 愛知県立愛知商業高等学校教諭 加藤眞太郎			
対 象	高等学校芸術科（書道）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	高等学校芸術科書道における「漢字の書」の創作指導の工夫 – 作品の構想と表現の工夫の視点 –		
研修内容の概要	現職教員の講師による教育現場における課題の発表と研修会参加者による協議、書壇で活躍している講師による「漢字の書」の創作についての実技指導と研修会参加者の実技演習、教科調査官による指導・講評を通して、現行学習指導要領の趣旨に基づき、「漢字の書」の創作の指導力の向上を図るとともに、「漢字の書」の創作の授業での指導の工夫について理解を深める。		
	[学習指導要領との関連] 高等学校芸術科（書道）： 主として A 表現・・・・・・（2）漢字の書 ア（ア）（イ）（ウ）、イ（ア）（イ）、ウ（ア）（イ） B 鑑賞・・・・・・（1）ア（ア）（イ）、イ（ア）（イ）（ウ） [共通事項]・・・・（1）ア、イ		
内容と方法	・教科調査官による理論研修（高等学校芸術科書道に係る行政面からの解説） ・現職教員による授業研究発表（「書道Ⅰ」「漢字の書」の創作指導）と研修会参加者による協議 ・書壇で活躍している講師による「漢字の書」の創作の実技指導と解説、研修会参加者の実技演習 ・教科調査官による指導・助言		
到達目標	・学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容、授業改善の視点について理解を深める。 ・「漢字の書」の創作における作品の構想と表現の工夫について、実技演習を通して理解を深める。 ・学習指導要領の趣旨を踏まえ、「漢字の書」の創作指導の授業並びに指導を工夫できる指導力を身に付けるようにする。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式、理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集（研究発表・協議）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	テーマ別実践研修（午後の部①）	参集（実演）
	14:00～14:15	休憩	
	14:15～16:30	テーマ別実践研修（午後の部②）	参集（演習・実技指導）
	16:30～17:00	全体講評・振り返り（教科調査官）	参集（全体講評）
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	書道用具（下記資料とともに提示）、『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 芸術編』（書道記載部分）		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：有 ○受講する上での環境条件等：無		